



名大トピックス

No.126 平成15年11月28日発行 名古屋大学総務部企画広報室 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel(052)789-2016
ホームページ URL <http://www.nagoya-u.ac.jp>

名古屋大学全学同窓会第2回総会及び講演会等が開催される



評議員会（議長：太田副会長）



講演会



総会であいさつをする豊田会長

CONTENTS

・名古屋大学全学同窓会第2回総会及び講演会等が開催される... 2	・医学部が解剖甲慰祭を挙げる..... 16
・第11回名古屋大学科学研究オープンシンポジウム が主催される..... 6	・博物館が第28回講演会「フーフェラントを超えて」 を開催する..... 16
・大学院留学生特別コース及び医学系研究科医療行政コース 入学式を挙げる..... 8	・太陽地球環境研究所がコミック冊子（日本語版・英語版） を発行する..... 17
・第1回国際学術コンソーシアム(AC21)運営委員会が開催される... 9	・附属農場が農業ふれあい教室及び連続講演会（第5回） を開催する..... 17
 ・1分子運動 / 反応のナノ観察から生細胞の膜機能システムを解く 楠見 明弘..... 10	・第42回国立七大学総合体育大会総合優勝祝勝会を開催する... 18
・大学院医学系研究科医療行政コース「ヤング・リーダーズ・ プログラム」開講記念講演会を開催する..... 12	・附属図書館で留学生用図書贈呈式が行われる..... 19
・オープンカレッジ「自由奔放！サイエンス」が開講される... 13	・平成15年度愛知地区国立学校等退職準備セミナー が開催される..... 19
・第1回名大ERC・キタン会名古屋ビジネスセミナー を開催する..... 14	・平成15年度名古屋大学職員創作美術展が開催される..... 20
・平成15年度第2回全学教育科目担当教官FDが 開催される..... 15	・平成15年秋の叙勲受章者決まる..... 20
・平成15年度医学部医学科公開講座を開催する..... 15	[INFORMATION]
	・名古屋大学医工連携シンポジウム..... 21
	・本学関係の新聞記事掲載一覧（15年10月分）..... 22
	・地下鉄開通記念 第10回名古屋大学博物館コンサート..... 25



名古屋大学全学同窓会 第2回総会及び講演会等が開催される

名古屋大学全学同窓会幹事会、評議員会、講演会及び第2回総会・懇親会が、11月2日(日)に開催されました。

名古屋大学全学同窓会(NUAL=ニューアル(Nagoya University Alumni Association))は、国立大学の法人化に向けて、大学と社会の連携がますます重要になることから、昨年10月27日に設立されたものです。また、本学の同窓会は、卒業生だけでなく本学関係者すべてを構成員とする新しいタイプの同窓会で、大学と同窓会が核となり、国内だけでなく国際的にも貢献することを目的としています。

幹事会では、同窓会の平成14年度の活動報告及び決算報告、平成15年度の活動計画及び予算案について審議され、引き続き行われた評議員会では、これらに加え、役員交代についても審議され、承認されました。なお、幹事会と評議員会には、豊田章一郎会長(トヨタ自動車株式会社取締役名誉会長)と6名の副会長も全て参加されました。

続いて、講演会が、シンポジオンホールにおいて行われ、丹羽宇一郎副会長(伊藤忠商事株式会社取締役社長)が「日本経済再生と産・学・官連携」と題して講演をされました。

講演の中で、丹羽副会長は、「今や世界の経済において、アメリカの力にはローマ帝国以上のものがあります。しかし、ドルの強さがいつまでも続くとは考えられず、これからは世界経済に少しずつ影が出てくるでしょう。その中で日本経済を見ると、個人消費の回復は容易でなく、企業も国内市場に軸足を置く場合は業績が低迷しています。日本経済の再生には企業

業績の回復が不可欠ですが、不良債権処理、それに続くリストラを経て、現在は、新たな収益構造が求められる段階にあります。これを達成する方策は二つあります。一つは、躍進著しい中国市場への進出であり、もう一つは、先端技術の応用と加工です。先端技術はそれがいくら優れていても、実態経済に適切な形で応用されないと利益を生みません。そのため応用研究は非常に重要であり、これには産学連携が必要となります。産学連携は、単なる社会貢献にとどまらず、企業にも大学にも実際に利益をもたらすものとなるべきです。」と述べられ、220名の参加者は、日本経済界の第一線で活躍している同氏の話を熱心に聞いていました。

その後、総会・懇親会が、グリーンサロン東山において行われ、岡田邦彦副会長(株式会社松阪屋取締役社長)による開会の辞、豊田会長及び松尾 稔総長によるあいさつがありました。続いて、代表幹事の伊藤義人附属図書館長が同会の活動報告を行った後、柴田昌治副会長(日本ガイシ株式会社代表取締役会長・日本経済団体連合会副会長)の発声により乾杯が行われ、終始和やかな雰囲気の中で歓談がもたれました。また、歓談中に、在校生の活動の一環として、本学のサークル「民族舞踏団おんぶ」による踊りが披露され、学生の力強く、息の合った踊りに見入り、踊りの終了後には、自然と大きな拍手が起きました。最後に、齋藤英彦副会長(国立名古屋病院長)による閉会のあいさつがあり、同会は、盛況のうちに終了しました。



講演をする丹羽副会長



講演会

豊田章一郎名古屋大学全学同窓会会長の総会あいさつ

ご紹介いただきました豊田でございます。

まず、最初に皆様と名古屋大学全学同窓会の創設1周年をお祝いしたいと思います。

今年の3月には、丹羽副会長などのご尽力により関東支部が立ち上がり、関東地区での名古屋大学と産業界との産学連携などで、全学同窓会が積極的に協力しております。また、平成8年4月に浜松を中心に静岡県西部に在住または在職の名古屋大学の卒業生の同窓会として設立されていた遠州会に全学同窓会支部として加わっていただきましたので、これまでに正式に2つの支部ができております。現在、関西支部の立ち上げの準備を、幹事会の下にあります連携委員会を中心に進めております。また、全学同窓会の設立を契機として、この3月に、文学部・文学研究科同窓会が再立ち上げされたとお聞きしております。今後、各部局同窓会と全学同窓会との連携を強めていきたいと思っております。

昨年度の設立総会で、名古屋大学の活躍はめざましいものがあるというように申しあげましたが、21世紀COE、教育COEの採択など種々のことで名古屋大学は注目されており、卒業生として喜ばしい限りであります。

私は、昭和22年に名古屋大学工学部を卒業いたしました。平成16年4月には、国立大学法人名古屋大学として新しい大学に生まれ変わります。しかし、名古屋大学の伝統である清新な気風は変わることがないと思っております。名古屋大学の法人格取得に伴って、大学と社会の連携がますます必要であり、そのために大学と卒業生との密接な連携協力が強く求められております。この全学同窓会が設立時の理念として掲げた「大学と社会を結ぶ必須の組織」となるようにますます皆様と一緒に努力したいと思っております。

私は、名古屋大学に3つのことを期待していると前にも申しあげました。

1つ目は、大学としての国際競争力の強化に向けた取り組みであります。2つ目は、今厳しい状況にありますが日本の国を変える大学を目指してほしいということであり、大学が変われば人々の意識も変わり、国も変わっていくはずであります。3つ目は、高い志と情熱を持った人材、すなわち将来社会のリーダーとして活躍できる人材の育成であります。高い目標を掲げ、まじめに真剣に、そして創意工夫を重ねこつこつと努力して、部下や仲間をリードしていくリーダーの養成です。最近の名古屋大学を見ますと、松尾総長を先頭にこれらの3つの目標に向かって着々と活動を進められていると思っております。

名古屋大学全学同窓会は、卒業生や修了生だけでなく、名古屋大学の現旧教職員など名古屋大学関係者すべての方を構成員とする新しいタイプの同窓会を目指しております。留学生を含む卒業生や名古屋大学関係者が、国の内外でどのような活躍をしているかを、全学同窓会は「社会貢献人材バンク」として、業務を積極的に推進しているところであります。インターネットによる住所変更などのシステムも稼働しております。E-mailアドレスなどのデータも含む人材バンクを作成して、情報ネットワークを通じて、大学と全学同窓会の会員が相互交流できる情報を通じた環境が構築されつつあります。

グローバル化の急激に進展する中であるからこそ、何を目指し、社会に対してどのような価値を実現しているか、名古屋大学のアイデンティティをしっかりと確立して、名古屋大学の強みを伸ばし、弱みを克服していく改革に、名古屋大学と全学同窓会は手を携えて立ち向かいたいと思っておりますので、今後ご来賓の方々の物心両面のご支援をよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、私のご挨拶とさせていただきます。

松尾 稔名古屋大学総長の総会あいさつ

松尾 稔でございます。

まずは、本学の責任者として、豊田会長はじめ役員の方々、同窓会会員の皆様方このように大勢お集まりいただきまして、大変お力がたく存じております。また、ただ今は豊田会長から過分のお言葉をいただき感謝しております。

何か今日は、私どもが赤い花を付けておますのはそぐわないような気がしておりますが、これでよいそうでございますので、お許しをお願いいたします。

私は、総長に就任して5年と7か月になりますが、当初から全学同窓会の設立は「念願」「悲願」であり、それが昨年10月に皆様のご努力によって設立されたのは、本学の教職員あるいは学生一同にとりまして大変な喜びであり、感謝しております。

幹事会におかれましては、種々の企画、立案、実行をいろいろやっていただいております。ただ今、会長からもございましたが、関東支部はこの3月に設立していただきましたし、浜松を中心とした同窓会支部(遠州会)も設立いただき、関西支部も準備中であるとおっしゃいます。現役の者として、本当は本当に心強く、感謝に堪えないところであります。

もちろんのことですが、学内的にもこの同窓会の重要性、意義等々を常に意識改革につながるよう説明をいたしておりますし、各部署の同窓会の組織強化や、留学生OBを中心とした外国各地での組織化にも力を入れていっております。

先程、会長から入学式の話が出ましたが、入学式・卒業式におきましても会長から祝辞をいただいておりますし、私自身も式辞の中で、同窓会の重要性等々につきまして常に話をしております。

また、毎年夏に名古屋大学を目指す高校生への説明会を本学で行うことになっており、今年も6000名余りが来てくれて、3日間にわたって説明いたしました。そういう折にも説明しております。留学生は、現在、国立大学では2番目の数で1300名程いますが、時々大きな会を開催しますので、そういう時にももちろんお話をしております。

来る12月17日には、東京で「学術研究と21世紀COE」と題しまして、産学官連携交流会を含めた「名古屋大学21世紀COE東京フォーラム」を開催する予定にしております。野依特任教授も特別講演で出ていただきますが、丹羽副会長(関東支部長)には、パネリストとしてご参加をしていただき、ま

た、関東支部会員の方々の大変なご助力を得ることとなっております。しっかりとしたものをやって行きたいと思っております。

また、本学の理念は学術憲章に基づいておりますが、教育、研究と並ぶ三本柱に社会貢献を挙げております。先程は丹羽副会長から社会貢献といふものは簡単なものではない、とお話を伺いましたが、そういうことをよく考えた上で、誠実にやっていきたいと思っております。

いずれにしても、個々の大学とか個々の企業あるいは個々人の社会的な産学官連携とか貢献といふのは、言うほどに簡単なことではありませんが、同窓会と大学が一体となって果たしていけることは数多くあると思っておりますし、大きな力になると信じています。大学を超えたそういった集団の存在感や役割は益々増大していくものと思っております。

それから、今、会長から紹介いただき、大変ありがたいことではありましたが、21世紀COEというのが随分騒がれました。名古屋大学はお陰様で、大学の規模を考えれば私は日本一と思っております。東大、京大の教官数4000名前後に比べますと本学は1800名で半分以下であります。採択数、レベルとも教育、研究ともに非常に評価されつつあり、一生懸命やっていかねばならないと思っております。

それから、もう一つ申し上げて置きたいと思っておりますが、会長も先程ふれていただきました国際交流であります。アカデミック・コンソーシアム、大学連合は、地方的なものを含めると世界に数多くありますが、地球規模のものは二つしかありません。一つはここでは詳しく申し上げませんが、いずれ消えていくと思います。もう一つが今、30程の世界の一流大学がコンソーシアムを組んでいるAC21であります。その提案校はこの名古屋大学であり、ヘッドクォーターをここにずっと置く拠点大学であります。

昨年は、第1回目の国際フォーラムを開催し、AC21が創設されましたが、この10日程前に世界から8大学が集まりAC21の理事会を行い、来年の第2回目をシドニーで開催することが決定しました。第3回目は多分ヨーロッパかアメリカになるかと存じております。

いずれにしても名古屋大学の存在感が高まるといふ、我々一生懸命努力していきたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻、ご助力をお願い申し上げます。お礼の言葉とさせていただきます。

◇ 全学同窓会第2回総会・懇親会 ◇



あいさつをする松尾総長



乾杯の発声を行う柴田副会長



司会進行をする岡田副会長



同窓会の活動報告を行う伊藤附属図書館長



民族舞蹈団おんぶによる踊り



総会・懇親会での歓談の様子



閉会のあいさつをする齋藤副会長



第11回名古屋大学科学研究 オープンシンポジウムが開催される

第11回科学研究オープンシンポジウムが、10月17日（金）学内外から約350名の参加を得て、シンポジオンホールにおいて開催されました。

このシンポジウムは、大学における学術研究を社会に還元することを目的として実施されているもので、単なる研究発表としてではなく、21世紀の学術研究のあり方について議論する場となっています。今年度は、「総合大学のビジョンと21世紀 COE」をテーマとして、平成14年度、15年度に21世紀 COE プログラムに採択された13拠点と総合大学のビジョンに焦点を当てて議論が展開されました。

今回のシンポジウムは、2部構成からなり、第1部では、松尾総長による「名古屋大学の将来構想と21世紀 COE」と題する講演と平成15年度同プログラムに採択された6拠点のリーダーによる研究発表が行われました。また、第2部では、福井総長補佐（研究担当、理学研究科教授）、周藤芳幸文学研究科助教授、金井総長補佐（男女共同参画担当、教育発達科学研究科助教授）、家森信善経済学研究科助教授、山本一良工学



松尾総長

研究科教授、宇澤 達多元数理科学研究科教授の6名の研究者によるパネルディスカッションが行われ、総合大学のビジョンや若手研究者の育成等の諸課題について各パネリストから多様な視点が示され、パネリストと参加者との活発な意見交換が行われるなど、会場は終始熱気に溢れていました。



祖父江医学系研究科教授



福井理学研究科教授



宇澤多元数理科学研究科教授



三矢工学研究科教授



山本工学研究科教授

プログラム

第一部

- ・松尾 稔 総長
「名古屋大学の将来構想と21世紀 COE」
- ・祖父江 元 医学系研究科教授
「神経疾患・腫瘍の統合分子医学の拠点形成」
- ・福井 康雄 理学研究科教授
「宇宙と物質の起源：宇宙史の物理学的解読」
- ・宇澤 達 多元数理科学研究科教授
「等式が生む数学の新概念」
- ・三矢 保永 工学研究科教授
「情報社会を担うマイクロナノメカトロニクス」

- ・山本 一良 工学研究科教授
「同位体が拓く未来 - 同位体科学の基礎から応用まで - 」
- ・安成 哲三 地球水循環研究センター教授
「太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学」

第二部

- ・パネルディスカッション

なお、平成15年度21世紀 COE 採択拠点の研究内容については、名大トピックス特別号『21世紀 COE 特集号』（平成15年度10月17日発行）をご覧ください。
また、名古屋大学のホームページ（<http://www.nagoya-u.ac.jp/topics/>）にも掲載されています。



安成地球水循環研究センター教授



パネルディスカッション



大学院留学生特別コース及び 医学系研究科医療行政コース入学式を挙げる

「大学院法学研究科、工学研究科、環境学研究科留学生特別コース及び医学系研究科医療行政コース入学式」が10月20日（金）豊田講堂第1会議室において開催されました。秋季入学式は、これまで大学院留学生特別コース入学式として定例化されていましたが、平成15年度（平成15年10月学生受入）に大学院医学系研究科修士課程医科学専攻医療行政コースが設置されたことに伴い、従来の大学院留学生特別コースに医療行政コースを含めて実施することになり、今年度は、



入学生総代の宣誓をする Sar Senera さん

導教官、留学生の家族らと交えて記念撮影が行われ、入学生はこれからの学生生活に期待を膨らませているようでした。



辞を述べる松尾総長

大学院法学研究科4名、大学院工学研究科5名、大学院環境学研究科6名及び大学院医学系研究科11名の計26名が入学し、本学で学ぶことになりました。

式典は、総長、副総長、事務局長、研究科長の列席のもと、名古屋大学交響楽団による奏楽で始まり、入学生紹介、総長の辞、役職員等の紹介に続き、大学院法学研究科の Sar Senera（サー セネラ）さん（カンボジア）が入学生総代として宣誓を行いました。

閉会後には、総長をはじめとする列席者、陪席の指



式に臨む入学生



第1回国際学術コンソーシアム（AC21） 運営委員会が開催される

第1回国際学術コンソーシアム（AC21）運営委員会が、10月19日（日）から21日（火）の3日間、豊田講堂第1会議室等において開催されました。

AC21は、昨年6月に開催した国際フォーラムにおいて、本学の提唱により設置された国際的連合組織です。現在、世界の26大学・研究機関がメンバーとして、4企業・NPOがパートナーとして参加して大学を中心とする国際的学術ネットワークを構築し、2年おきに定期的に国際フォーラムを開催するとともに、学生・教職員の交流、研究成果の共有化及び教育プログラムの共同開発などの常設活動を行い、大学自らが水準を高めるとともに、互いに価値を他に伝え合い国際社会及び地域社会に貢献することを目的としています。

運営委員会には、本学を含め8大学が参加し、AC21に会長を置くこと、企業・NPOなどにAC21パートナーとして参画いただくこと、1人当たりGDPに基づく年間費用負担等を定める規程案が提案されました。そして、初代の会長に松尾総長が推挙され、これと併せて了承されたAC21規程案とともに、来年7月にシドニー大学で開催される第

2回国際フォーラム総会において決議がなされます。また、トヨタ自動車株式会社、日本ガイシ株式会社、英国ウォリック大学関連のNPO（West Midland Agency及びAsia House）がパートナーとして承認されました。さらに、各大学から常設活動について、NUPACEのプログラムと東海地方の企業における研修の互いに優れた点を組み合わせた新しい国際インターンシップ事業、その時々的重要テーマについて自ら企画し、1週間程度合宿して議論する学部学生世界会議（毎年）、参加大学が自らの優れた経験をベストプラクティスとして提供し合い目標設定・評価に結びつけるベンチマーキング、オンライン語学教育プログラムとe-learning HUBの開発、Dr.学生の交換指導、学部学生のリサーチ・インターンシップ（研究室への3ヶ月程度の相互受入）等が提案され、了承されました。

なお、豊田章一郎全学同窓会会長及び上述のパートナー各位には、AC21の趣旨をよく御理解くださり、その支援体制をとっていただきつつあります。このことは、AC21にとって大きな支えとなっています。



AC21運営委員会



あいさつする松尾総長



1分子運動 / 反応のナノ観察から 生細胞の膜機能システムを解く

楠見明弘

我々の研究室では、生きている細胞の中で、細胞膜上の受容体やシグナル分子を1個ずつ(1種の分子という意味ではなく、ホントに1個の分子!!念のため)直接に見たり、引っ張って動かしたりしています(図1,2)。それによって、細胞のシグナル伝達系がシステムとしてどのような機構で働くのか、神経回路網はどのようにして形成されるのか、などの「作動機構」について、本質的な理解に到達したいと考えています。つまり、生物が進化によって獲得してきた、シグナル系や細胞の社会の働かせ方の「基本的/一般的な戦略」を理解したいと考えているのです。

「基本的/一般的な戦略」というのは抽象的なので例を挙げてみましょう。細胞に刺激を入れると、生化学的なアッセイ系ではもちろんのこと、イメージングの方法で生細胞を観察しても、シグナル系の活性化が1

~数分間続くように見えることがほとんどです。しかし、1分子毎に見てみると、1秒以下の活性化しか起きていない例が、我々の最近の研究で次々と見つかってきました。細胞外からシグナルが来ると、いくつかのシグナル分子や活性化されたシグナル分子に結合するスキャッフオールディング(足場)タンパク質が協同的な相互作用を起こし、急速にシグナル複合体を作ります。しかも、このような複合体は、あっという間に(つまり1秒以内に)分解されるらしいのです。このようなシグナリングの仕方は全く予想されていなかったものでした。つまり、細胞のシグナル機構の重要な部分は、量子化されていて、デジタル式に働くようなのです(図3)。

つまり、平均としての活性化は(局所的な平均であっても)個々の分子のはるかに短い活性化(量子化さ



図1：生細胞内での1分子ナノバイオロジーの研究を象徴的に示した図。ヒトが1000万分の1の大きさに縮まって、生きている細胞の中を探検している。足下にはクラスリン被覆ビットが広がっている。そこで働いているタンパク質を1分子ずつ見たり引っ張ったりして働き方を調べている。このような1分子法を用いると、細胞が被覆ビット構造を作ったり働かせたりする仕組みがよくわかるはずである。

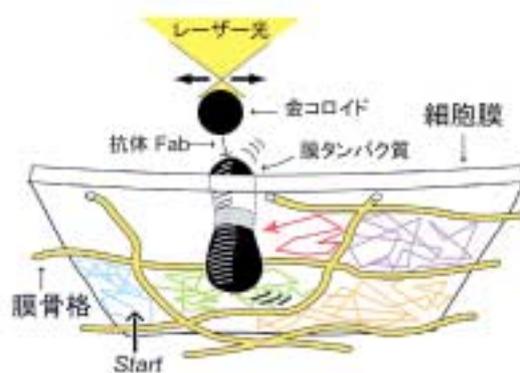


図2：光ピンセットで金コロイド標識された膜タンパク質を引っ張って、膜骨格との相互作用を調べる。生きている細胞の中で、細胞膜上の受容体やシグナル分子を1個ずつ、直接に見たり、引っ張って動かしたりする。それによって、細胞のシグナル伝達系がシステムとしてどのような機構で働くのか、神経回路網はどのようにして形成されるのか、などの「作動機構」について、本質的な理解に到達したい。



図3：Rasが活性化されると、活性化RasにSUR-8などの足場タンパク質(scaffolding protein)が結合してくる。ここには他の未知タンパク質も結合してくるらしい。このような複合体ができる、膜骨格のピケットやフェンスのために運動が停止する。そこへRafが結合してきて、Rafが活性化される、すなわち、Rafにシグナルが伝わる。最後にRasGAPがやって来る。RasGAPがRasに働きかけ、Rasが不活性化されると、会合体がバラバラになり、これらのタンパク質はまた拡散運動を開始する。このようなシグナル分子複合体が出来てから壊れるまでの0.5秒くらいの間にシグナルが伝わり、Ras分子は不活性化されるということである。このモデルはまだ作業仮説の段階にある。

れたシグナル)の積分によって成り立っています。したがって、或る時間での多数分子平均の活性の度合いは、単純に、その時間にONになる分子の個数で決まります。これは、ONの回数・頻度だけをいじれば済むという実に単純で確実な制御です。もし、「個々の分子の活性化時間=全体の活性化時間」に近いようなシステムが採用されていたとしたら、活性化と不活性化の両方を制御し、しかも、積分制御という複雑な方法で各分子のON-OFFが制御されなくてはなりません。これは、細胞にとって困難であり、制御に失敗する確率が高くなると考えられます。しかも、そのシグナル分子がRasやSrcなどのような癌遺伝子産物であるような場合(注-このような細胞内シグナル伝達に関わるタンパク質分子は細胞の動きに必須ですが、それらが制御できずに働くようになると細胞が無制限に増殖しガンを起こします。ガンの研究から発見された分子という歴史をもつため、これらの細胞内でのシグナル伝達にかかわるタンパク質分子は、癌遺伝子産物

と呼ばれます)制御に失敗して暴走させることの結果は重大です。暴走を避けるという意味では、「個々の分子のレベルでは、活性化したら即座に不活性化しておく」という制御法を取ることは重要です。

いま、このような考え方が、どの程度広く細胞で使われているか調べているところです。このような発見は普通の実験のように多数分子の平均的な振る舞いを測定してもできなかったものです。最初に書いたように、1分子毎に調べて初めてわかることなのです。

(動画がないと内容がわかりにくいと思います。研究内容を28分のビデオににして紹介したDVDを配付しています。ご希望の方は、forum@kusumib.bio.nagoya-u.ac.jpまでご連絡下さい。お送りします。)

プロフィール

くすみ あきひろ

1975年 京都大学理学部(生物物理学専攻)卒業
1980年 京都大学大学院理学研究科、理学博士

[研究経歴]

1980 - 82年 ウィスコンシン医科大学博士研究員
1982 - 84年 プリンストン大学博士研究員
1984 - 88年 京都大学理学部助手(生物物理学教室)
1984 - 93年 ウィスコンシン医科大学客員教授
1984 - 93年 同 マイクロホトニックセンターディレクター
1988 - 97年 東京大学教養学部助教授(基礎科学科)
1997年 - 名古屋大学大学院理学研究科教授(生命理学専攻)
1998年 - 科学技術振興事業団ERATO楠見膜組織能プロジェクト総括責任者
2003年 高等研究院流動教官を兼任

[受賞、レクチャーシップなど]

2003年 瀬藤賞(日本顕微鏡学会)





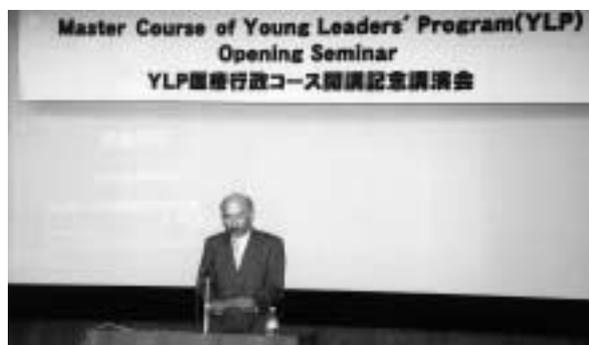
大学院医学系研究科医療行政コース 「ヤング・リーダーズ・プログラム」開講記念講演会を開催する

大学院医学系研究科は、今年10月に開講した医療行政コース「ヤング・リーダーズ・プログラム(YLP)」の開講を記念し、10月7日(火)に医学部鶴友会館において、開講記念講演会を開催しました。

このプログラムは、発展途上国における将来のナショナルリーダーを育成することを目的としており、医療行政分野でのYLP設立は本学が初めてです。スタート年となった今年度は、ラオス、カンボジア、モンゴル、キルギスなど8カ国の若手行政官が参加し、国際色豊かな構成となっています。また、同コースには病院経営・管理学プログラム



講演を行う長谷川氏



開講のあいさつをする杉浦研究科長

として、別途に中国の2名も入学しています。

開講記念講演会は、すべて英語で進行し、YLP担当である伊藤勝基医学系研究科教授の開会の辞に続き、杉浦医学系研究科長から医療行政コースの意義と留学生への期待を込めた開講のあいさつがあり、その後、国立保健医療科学院政策科学部長の長谷川敏彦氏による“Health Transition and Health Sector Reform in Asia”「アジア諸国の健康転換と健康変革」と題する講演が行われました。参加者からは、日本の医療行政及び医療システムとその歴史に関する質問があり、特に医療保険の問題に関しては、医療保険制度のない国々の留学生と熱心な意見交換の場ともなりました。質疑応答は、活発なディスカッションに発展し、最初のコロシアムにふさわしいものとなりました。この講演が大学院医学系研究科の「医

学特論」の単位として認められることもあり、博士課程の大学院生も参加して非常に活気あるものになりました。続いて、医療行政コース第一期生の紹介があり、各参加者が現在の自国でのポジションと日本で学びたいことなどを含めて自己紹介を行い、最後に、勝又前医学系研究科長から謝辞が述べられました。

講演会終了後、レセプション・パーティーが同会館で催され、名刺交換や弾んだ会話で和やかに交流が行われました。また、医療行政コース留学生が長谷川氏に積極的に質問を投げかけている姿が見られ、レセプションは盛況のうちに終了しました。これから一年間のカリキュラムで、留学生の積極的なディスカッションが交わされることが伺え、有意義な一日となりました。



質疑応答の様子



オープンカレッジ 「自由奔放！サイエンス」が開講される

大学院経済学研究科エクステンション・サービスは、オープンカレッジ「自由奔放！サイエンス」を開講し、第1回講義が10月25日（土）経済学部第1講義室において行われました。

このオープンカレッジは、これから大学を目指す中高生たちに、できるだけわかりやすく、大学の研究室で行われている最新の研究やその熱意を伝えるために開講するもので、学問の面白さを様々な角度から体験してもらうことにより、「中高と大学の連携を深め、優秀な学生に来てほしい」と大学院経済学研究科の教授らにより企画されました。様々な研究分野の研究者が、大学全体の雰囲気を知る機会になればと、ボランティアで参加し、来年2月まで9回の講義を予定しています。

第1回は、竹内常善経済学研究科教授が、「日本経済の課題、経済学の課題」と題して、約80名の中高生等に講義を行いました。竹内教授は、大学について、「知的好奇心の強い人が来る場所」と話し、「入学したら高い専門性と教養を身につけてもらいたい」と語りかけました。

講義日程

- 10月25日 「日本経済の課題、経済学の課題」
竹内常善経済学研究科教授
- 11月8日 「森林科学と環境問題」
竹中千里生命農学研究科教授
- 11月15日 「キャリアの心理:いかに生きるかどんな仕事をするか」
金井篤子教育発達科学研究科助教授
- 12月6日 「ヒトの遺伝子と癌」
濱口道成医学系研究科教授
- 12月13日 「法：未来社会をデザインする機能」
松浦好治法学研究科教授
- 1月10日 「工学の解体をめざして」
辻本 誠環境学研究科教授
- 1月24日 「名画を探偵する」
木俣元一文学研究科教授
- 1月31日 「コンピュータ・シミュレーションと現実の世界」
高桑宗右工門経済学研究科教授
- 2月7日 「大学で見る宇宙の夢:宇宙物理学の現場から」
福井康雄理学研究科教授



第一回講義の様子



第1回名大ERC・キタン会 名古屋ビジネスセミナーを開催する

大学院経済学研究科附属国際経済動態研究センター（以下、ERC）は、本学経済学部同窓会の社団法人キタン会と共同で「名大ERC・キタン会名古屋ビジネスセミナー」を発足し、10月3日（金）、サイプレス・ガーデンホテルで、第1回セミナーを開催しました。

両者は、これまでも共同で国際シンポジウム等を開催してきましたが、来年度からの国立大学法人への移行という時代の流れを背景として、研究成果等の経済に関する情報の共有を通じて地域社会に貢献するために、同セミナーを開催することにしました。また、本学関係者に限定しないオープンな形式で開催し、これを将来的には産学官を含む総合的な地域ネットワークに発展させていく予定です。

セミナーでは、キタン会の松枝副会長と平川同セン

ター長からセミナーの趣旨説明及び協力を呼びかけるあいさつがあり、続いて、渡辺利夫拓殖大学国際開発学部長による「中国新体制の課題は何か」と題する講演がありました。渡辺氏は、講演の中で、中国にとって最も重要な問題は、国有企業改革を進めることから生ずる都市部の失業増加と、農業の市場開放に伴う農村部の潜在失業の顕在化であり、これから2020年まで毎年7.2%の実質成長を続けることができたとしても、この圧力を現状程度にとどめるだけだと推定され、また、その実現も、容易なことではないと述べられました。

講演終了後、北原経済学研究科長より閉会のあいさつがあり、閉会後に行われたセミナー発足を祝う懇親会では、渡辺氏を中心に談笑の輪が広がるなど、盛況のうちに終了しました。



セミナーの様子



平成15年度第2回全学教育科目 担当教官FDが開催される

教養教育院は、10月2日(木)、全学教育棟3C講義室において、「教えるスキルを学ぼう」をテーマに、標記FDを開催しました。今回は、非常勤講師を含む担当教官全員を対象としたもので、267名が参加しました。

若尾登録教官群管理専門委員会委員長の司会進行のもと、中島副総長のあいさつ及び平井教養教育院長による「今回のFDの趣旨」の説明があり、続いて、篠田教務委員会委員長から「授業実施のためのガイドライン」、小栗評価専門委員会委員長から「前期授業アンケートの経過報告」について説明がありました。

今回の企画として、鈴木 誠北海道大学教授から「効果的な授業デザインと教材作成」をテーマとした特別講演があり、引き続き、文系教養科目の実践報告として、神塚淑子文学研究科教授、理系教養科目の実践報告として、浪川多元数理科学研究科長の講演がありました。

全体FD後の科目別FDは、11科目のグループに分かれて実施され、主査等から、前期授業アンケート結果及び担当教官からの授業実践プランの報告をもとに活発な意見交換が行われました。

参加者からは、「他の教官の授業の進め方を聞くことができ参考になった」等多くの意見が寄せられ、大変有意義なものとなりました。



講演する鈴木教授



平成15年度医学部医学科 公開講座を開催する

医学部は、10月10日(金)、名古屋市公会堂において、「いつまでも元気で」をテーマに、平成15年度医学部医学科公開講座を開催しました。

21世紀を迎え、高齢化社会が進む中、遺伝子治療や再生医療等の高度先進医療のみならず、老化による障害や生活習慣病の予防はますます重要となってきています。こうした現状を踏まえ、今年度は、老化現象として代表的な高血圧、物忘れ痴呆症、骨粗しょう症・腰痛について取り上げました。

当日は、コーディネーターの富田 靖医学系研究科教授の司会進行のもと、松尾清一同研究科教授による「『高血圧と言われたら』 - わかりやすい高血圧の話 -」、医学部附属病院老年科医員の鈴木裕介氏による「お年寄りの物忘れ、痴呆症について」及び石黒直樹同研究科教授による「骨粗鬆症と腰痛」の講義が行われました。医療関係者、主婦、学生等の10代から7代にわたる幅広い年齢層の約60名が受講し、質疑応答も活発に行われるなど盛況のうちに終了しました。



講義を熱心に聞く受講者



医学部が解剖弔慰祭を挙げる

医学部は、10月15日（水）、平成15年度名古屋大学医学部解剖弔慰祭を行いました。

この弔慰祭は、医学の教育研究のために献体された故人を慰霊するため、毎年行われているもので、今年度も御遺族をはじめ、教職員、学生ら約400名が参列し、故人の冥福を祈りました。

式典では、高橋雅英医学系研究科教授が「提供いただいた御遺体に深く感謝するとともに、医学医療の進歩・発展並びに医師及び医学研究者の育成のために一層努力する覚悟である。」と慰霊のことばを述べました。また、学生を代表して奥新和也さんが「人生を全うされて、なお、後の医学の発展に貢献されるという故人の強い思いが私たちの心に深く残っています。」と感謝の言葉を述べ、明日の医学医療を支える者として努力を怠らないことを御霊と御遺族に対して誓いました。

式典に引き続き、解剖供養塔に御遺族、教職員、学生が参列し、納骨を行いました。

なお、今回供養された献体数は、系統解剖30体、病理解剖59体で、医学部創設以来の献体総数は16,603体となりました。



あいさつをする高橋教授



博物館が第28回講演会「フーフエラントを超えて」を開催する

博物館は、第2回企画展「フーフエラントと幕末の蘭方医-毛利孝一コレクションから」（10月1日～11月3日）の関連企画第二段として、10月23日（木）、第28回特別講演会を開催しました。

講演会では、山内一信医学系研究科教授が「フーフエラントを超えて 幕末から今日に至るインフォームドコンセント」と題して、インフォームドコンセント（IC）の歴史を分かりやすく解説されました。同教授は、ヒポクラテスからフーフエラントに至る「治療の間にはなるべく何事も患者に知れぬように」との姿勢から、インフォームドコンセント、つまり患者が自己決定権に基づいて自律的に医療行為を承認するという現代の姿へと変わってきた歴史を1947年のニュールンベルク綱領を起点として辿られました。また、幕末に岐阜県で行われたIC類似の医療行為として、ご自身が研究された不破家手術記録を詳しく紹介されました。さらに、ICが真に機能するには医師と患者との信頼関係が不可欠であるとして、問診の重要性を強調されました。そして、ICにおいては、情報開示（医師から患者への情報伝達）だけでは不十分であり、両者の信頼関係に基づいた情報の共有が求められ、さらに進んで、人間同士の対話こそが健康な社会をつくる活力であると締め括られました。

講演後、55名ほどの聴衆からは専門的な質問が相次ぎ、活発な議論が行われました。



講演する山内教授



太陽地球環境研究所がコミック冊子 (日本語版・英語版)を発行する

太陽地球環境研究所は、文部科学省の地域貢献特別支援事業のユニークな試みとして、日本語版「地磁気ってなんだ!?!」と、その英語版“ What is the Geomagnetic Field?!”というコミック冊子をそれぞれ今年6月、9月に発行しました。

同冊子は、それぞれ16ページのフルカラーで、作者は、大学で物理学を専攻した人気女性漫画家のはやのん氏、監修は、同研究所によるものです。地球磁場の発生の謎や、その力によって地球上の生命が守られていること、この200年間に地球の磁場は着実に減少しており、このままの割合で減少し続けると、800年後には日本でも毎晩オーロラを見ることができ、1200年もすると地球の磁力はゼロになる計算であることについて、登場するキャラクターと先生による会話形式の解説を取り入れ、読者がわかりやすく理解できるように工夫を凝らしています。

また、英語版は、米国立宇宙環境研究センター(Space Environment Center)と同地球物理データセンター(National Geophysical Data Center)との協同で制作され、地域の科学館などに置かれるほか、関連研究所のアウトリサーチ部門でも配付される予定です。



コミック冊子
(日本語版・英語版)



附属農場が農業ふれあい教室及び 連続講演会(第5回)を開催する

大学院生命農学研究科附属農場は、文部科学省による地域貢献特別支援事業「都市近郊の農業教育公園」の一環として、農業ふれあい教室を10月4日(土)、11日(土)に、農業館において開催しました。今回は、小学校高学年の生徒とその保護者、10家族25名が参加し、草をテーマに、草の繊維を利用した紙作り、附属農場で実験用に飼育されているヤギと遊ぶことなどが行われました。

また、農業館を利用した連続講演会の第5回として、10月18日(土)、1級ビオトープ計画管理士の長谷川明子氏による「ビオトープと都市住民」と題する講演を開催しました。

講演会で、長谷川氏は、ビオトープとは、生き物たちの棲む空間の意味であり、日本では池又は川など水辺が強調されがちですが、生物が棲みやすい環境を保護・保全・復元・創出することがビオトープ事業であることを強調されました。最後に、ビオトープは少なくとも30年先を見越してコンセプトを考えて欲しい、また、ビオトープは作ったときが始まりであり、それをいかに維持しながら完成させるかが問題であると締めくくられ、講演会は終了しました。



楽しそうにヤギと遊ぶ小学生



第42回国立七大学総合体育大会 総合優勝祝勝会を開催する

第42回国立七大学総合体育大会(参加校:北海道大学、東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学、本学)は、本学が7年ぶりに主管校となり、7月を中心に27種目の競技が行われました。

本学は開幕当初から大いに健闘し、11競技で優勝、2位以下に大差をつけて3度目の総合優勝を成し遂げ、8月12日(火)の閉会式で優勝旗・優勝杯を手にする事ができました(本誌124号(平成15年9月30日発行)既報)。



祝辞を述べる松尾総長

今年度の優勝を祝い、附属図書館前第2グリーンベルトにおいて、10月10日(金)の午後5時30分から夕暮れの中、灯りがともされ、体育会クラブ員をはじめ、部の顧問や一般学生、教職員が集まり、松尾総長、伊藤副総長を出迎え総合優勝祝勝会が盛大に催されました。この日のために体育会委員を中心に多数のクラブ員が第2グリーンベルトを自発的に草刈りをし、多くの方々からお褒めの言葉をいただきました。

閉会式での「優勝した時には松尾総長を胴上げします」との約束どおり、多くの学生による松尾総長の胴上げ



松尾総長の胴上げ

がここで実現しました。また、だるま入眼、鏡割り、優勝クラブの表彰などが行われ、互いに総合優勝の喜びを分かち合いました。総長、副総長を囲んで携帯カメラを手に記念撮影をする学生の姿が多く見られ、総長、副総長と語り合える貴重な時間を楽しく過ごしました。

また、この会に際して、豊田章一郎全学同窓会会長(トヨタ自動車株式会社取締役名誉会長)並びに太田和宏副会長(株式会社デンソー特別顧問、豊田紡織株式会社相談役)より祝電、祝辞をいただきました。



祝勝会の様子



附属図書館で留学生用図書の 贈呈式が行われる

附属図書館は、名古屋栄ライオンズクラブから、留学生のための図書資料を寄贈していただくこととなり、その贈呈式を10月24日(金)、中央図書館3階ホールにおいて行いました。

これは、同クラブの創立10周年を記念する行事の一環として、留学生センターを通じて、本学で学ぶ1,200名余りの留学生への支援の申し出があり、留学生のための日本・日本文化紹介等の日本語図書及び外国語図書など216点が同図書館に寄贈されることになったものです。中央図書館では、3階の学習用図書フロアの一角に新たに留学生コーナーを設けて、寄贈図書及び関連のビデオ資料等を展示配架し、利用に供することになりました。

贈呈式には、同クラブの代表10名余り、本学から伊藤副総長をはじめ、伊藤附属図書館長、末松留学生センター長及び留学生代表3名など約50名が出席のもと、同クラブ代表から贈呈目録が授与され、また、伊藤館長が同クラブへ感謝状を贈呈するとともに、今後とも留学生の支援と協力をお願いしました。

式典後、寄贈された図書は、早速利用に供され、留学生が図書を手に取り、眺める光景が見られました。留学生コーナーに置かれている図書は、学習用図書の一部として広く利用してもらえとこし、また、今後とも同コーナーの蔵書の充実を計っていく予定です。



伊藤附属図書館長(右)による感謝状の贈呈



平成15年度愛知地区 国立学校等退職準備セミナーが開催される

平成15年度愛知地区国立学校等退職準備セミナーが、10月23日(木)、経済学部第3講義室において、本学と愛知教育大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、豊田工業高等専門学校及び岡崎国立共同研究機構の5機関との共催により開催されました。

このセミナーは、愛知県に所在する国立学校等の文部科学省共済組合員で、平成15年度から平成19年度までの定年等退職予定者及びその配偶者を対象とし、退職に当たっての心構えと退職後の生活設計に必要な知識を提供することにより、将来への不安を解消し、今後の社会生活、家庭生活の基盤づくりに役立てることを目的とした“退職準備型セミナー”として毎年開催しているもので、今回は、180名が参加しました。

セミナーでは、佐藤祐造総合保健体育科学センター教授から「定年後の健康管理と健康増進」と題し、生活習慣病予防のための運動療法について、また、木村好男住友信託銀行財務コンサルタントから「これからの経済・生活設計」と題し、退職後の資産管理のあり方についての講演が行われました。さらに、事務担当者による退職後の医療制度、退職手当及び退職共済年金制度等の説明があり、参加者は熱心に聴講していました。講演終了後も参加者から多数の質問があり、セミナーは盛況のうちに終了しました。



熱心に説明を聞く参加者



平成15年度名古屋大学 職員創作美術展が開催される

平成15年度名古屋大学職員創作美術展が、10月21日（火）から10月24日（金）までの4日間、シンポジオンホールにおいて開催されました。

同美術展は、今年度で12回目を迎え、職員自ら創作活動を楽しみ、美術作品等の鑑賞を奨励するとともに、潤いのある情操豊かな生活、余暇の一層充実した活用を促し、生活に根ざした文化の普及・高揚に資することを目的として開催されているものです。今回は、絵画、書道、写真、彫刻、手工芸及び俳句と幅広く、多くの力作が展示され、延べ300人近い職員等が鑑賞に訪れ、芸術の秋を心ゆくまで満喫していました。



作品を鑑賞する職員



平成15年秋の叙勲受章者決まる - 本学関係者5名が喜びの受章 -

平成15年秋の叙勲の受章者が発表され、本学関係者では次の方々が受章されました。

《叙勲》

- | | | |
|-------|-------|-----------------------|
| 瑞宝中綬章 | 柘植 利之 | 名誉教授
(教養部、元附属図書館長) |
| 瑞宝中綬章 | 竹村 彰祐 | 名誉教授(理学部) |
| 瑞宝中綬章 | 森 一美 | 名誉教授(工学部) |
| 瑞宝中綬章 | 飯田喜四郎 | 名誉教授(工学部) |
| 瑞宝中綬章 | 鈴木 太七 | 名誉教授(農学部) |

INFORMATION

名古屋大学医工連携シンポジウム
～ 夢を実現する超先端医療技術 ～

主催 名古屋大学医学系研究科、工学研究科及び関連研究科・センター
日時 平成15年12月20日(土) 13:00～17:00
会場 名古屋大学シンポジオンホール
後援 中部経済産業局、愛知県、名古屋市、愛知県医師会、名古屋市医師会、名古屋大学医師会、中部経済連合会、名古屋商工会議所、(財)名古屋産業科学研究所中部 TLO、(財)中部科学技術センター、(財)科学技術交流財団、東海ものづくり創生協議会、東海ビジネスドットコム、中日新聞社、日刊工業新聞社、日本工業新聞社

参加予定人員 約200名(予定)

参加費 無料

開催概要

13:00 開会

主催者代表挨拶 名古屋大学総長 松尾 稔
後援者代表挨拶
来賓祝辞

13:30 医工連携への期待

「医学の立場から」
大学院医学系研究科長 杉浦 康夫
「工学の立場から」
大学院工学研究科長 平野 真一

14:00～16:50 講演

「泌尿器科における内視鏡技術の臨床応用」
大学院医学系研究科教授 大島 伸一
助手 山本 徳則
「体を創る - 医工連携により生体材料の可能性を拓く -」
大学院医学系研究科教授 石黒 直樹
「(熱)・(免疫)・(転移がん)をやっつける新しいがん治療法」
大学院工学研究科教授 小林 猛
「ヒトの身体を知り、支援する工学」
大学院工学研究科教授 田中 英一

17:00 閉会

問い合わせ：工学部・大学院工学研究科総務課
TEL 052-789-3406
e-mail ikou@engg.nagoya-u.ac.jp
ホームページ http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/ikou/



INFORMATION

本学関係の新聞記事掲載一覧（15年10月分）

	記 事	月 日	新聞等名
1	東大医科学研究所は、日立メディコなどと共同で「歯胚再生」医療に向け研究部門を創設 研究リーダーは上田実・医学系研究科教授	10.1(水)	中日(朝刊)
2	文部科学省は「国立大学法人評価委員会」を発足 評価委員は野依良治・理化学研究所理事長ら16名	10.1(水) 10.2(木)	日経(朝刊) 他3社
3	日本フランス語フランス文学会中部支部秋季大会 研究発表6件と、佐藤彰一・文学研究科教授、松澤和宏・同教授らによるシンポジウム	10.1(水)	中日(夕刊)
4	科学研究シンポ「総合大学のビジョンと21世紀 COE」 松尾稔総長による本学の将来構想と21COEの説明など	10.2(木)	日刊工業
5	日東学術振興財団、第20回助成を決定 研究助成は田畑彰守・工学研究科講師ら7人、海外助成は呉明児・環境学研究科助手ら20人	10.2(木)	中日(朝刊)
6	医学部附属病院は、院長職の専任制とする方針を固め、来春から実施する	10.2(木)	日経(夕刊)
7	東京慈恵会医大青戸病院の事件を受け、腹腔鏡手術の指針を作成 内視鏡手術に関する学会の理事長・大島伸一・本学医学部附属病院長は「医療に対する不信が高まっており、何らかの説明が必要」と指針づくりの背景を説明	10.3(金)	サンケイ
8	国立大7割が朝鮮学校卒業生に受験資格を認めた 本学は2日までに朝鮮学校生3人の受験資格を認める決定をし、本人に通知した	10.3(金) 10.4(土)	朝日(朝刊) 他2社
9	医学系研究科に新設されたヤング・リーダーズ・プログラム医療行政コースで学ぶ留学生が名古屋入り	10.3(金)	中日(朝刊)
10	財団法人ファインセラミックスセンターは、本学が進める「21世紀 COE プログラム」研究の1分野「自然に学ぶ材料プロセス」の創成」研究チームに参加	10.3(金) 10.2(火)	日経(朝刊) 毎日(朝刊)
11	1日付けで理化学研究所理事長になったノーベル化学賞受賞者・野依良治さんが文部科学省で会見 「在任中に、理研からノーベル賞が多く出ればいいね」	10.3(金)	朝日(朝刊)他3社

	記 事	月 日	新聞等名
12	ファイナダー：微を極める 細胞内部の解明、加速 生田幸士・工学研究科教授らが150ナノメートルの微小なピンセットなどを作成し、細胞の内部を調べる道具を目指している	10.5(日)	日経(朝刊)
13	富田武名誉教授が作詞した歌「開田のそば」 長野の祭りで初披露	10.6(月)	中日(朝刊)
14	浪川幸彦・多元数理科学研究科長の数楽、数が苦：ピタゴラスの定理 球面上では成り立たず	10.6(月)	中日(朝刊)
15	名古屋の8校スクラム 市立高生に「自然科学教室」 第1回は「化学のマジックとそのからくり」川泉文男・工学研究科助教授	10.6(月)	中日(朝刊)
16	日経ナノテクフェア2003 「第3回日経ナノテク国際シンポジウム」講演や、篠原久典・理学研究科教授らによるパネルディスカッション「ナノバイオ」の将来性などを議論	10.6(月) 10.9(木) 10.27(月)	日経(朝刊)
17	愛工大「万博大学」開講 本学特任教授・野依良治・理化学研究所理事長らなどが登壇	10.7(火) 10.9(水)	中日(朝刊)読売
18	名古屋大 COE 第7回オープン・レクチャー 松澤和宏・文学研究科教授「宮沢賢治『銀河鉄道の夜』の草稿を読む」と題して語る	10.7(火)	中日(朝刊)
19	労働時間短縮へ「2003ゆとり創造シンポジウム」「実践的休暇論」をテーマに和田肇・法学研究科教授らがパネルディスカッション	10.7(火)	中日(朝刊)
20	総長選 松尾稔総長は所信表明で3期目辞退を表明	10.7(火) 10.8(水)	朝日(夕刊)他2社
21	高井治・理工科学総合研究センター教授らの研究チーム 透明な撥水皮膚膜の開発に成功したと発表	10.8(水)	毎日(朝刊)
22	未来塾講座「市民社会の発展を目指して」 佐藤安信・国際開発研究科教授の「世界の平和構築と市民社会」	10.8(水)	中日(朝刊)
23	法科大学院 授業料、私立次々「値下げ」 本学の初年度納入金は、東海地方の私学にとって物差しとなる	10.8(水)	読売
24	東海テレビドキュメンタリー「理想のかたち～名古屋大学病院改革300日～」 医学部附属病院の「経営」 拝見	10.8(水)	中日(夕刊)

	記 事	月 日	新聞等名
25	歯の健康講演会 糖尿病と歯周病 元医学系研究科教授・堀田 鏡・中 部 芳 災 病 院 長 ら に よ る 講 演 と シ ン ポ ジ ヴ ム	10.9(木) 10.10(金)	読売
26	ノーベル化学賞に米2氏 野依良 治・特任教授と田中耕一・フェロー 対談 野依氏「化学の領域広が った」	10.9(木)	中日(朝刊)
27	若松佑子・生物機能開発利用研究 センター教授らの研究チームが開 発した「透明メダカ」東山動物園 で国内初公開	10.10(金)	読売
28	シリアと日本橋渡し 大学院博士 課程在籍の国際センター民間大使 着任・ナジブさん	10.10(金)	中日(朝刊)
29	医学の現場から：腎機能管理のポ イントを中井滋・医学部附属病院 在宅管理医療部助手に聞いた 「塩分取り過ぎ、高血圧も要注意」	10.10(金)	中日(朝刊)
30	衆院解散あなたはどう命名 小野 耕二・法学研究科教授は「底打ち 解散」と命名	10.10(金)	中日(朝刊)
31	コーナーキック：気が合わない 森田美弥子・教育発達科学研究科 教授	10.10(金)	中日(夕刊)
32	訃報：大井優一名誉教授 10日脳 出血のため死去	10.11(土) 10.13(月)	中日(朝刊) 日刊工業
33	名古屋大21世紀COEプログラム 「宇宙の物質の起源...宇宙史の物 理学的解説」シンポジウム 各研 究チームの概要など	10.12(日)	中日(朝刊)
34	名大リウマチ療養相談会 小島俊 久・医学部附属病院医師の講演 「リウマチと骨粗しょう症」ほか	10.12(日)	中日(朝刊)
35	名古屋大科学研究オープンシンポ ジウム 本学の6教官が最新成果 を報告	10.13(月)	毎日(朝刊)
36	2003キャンパスベンチャーグラ ンプリ CHUBU 実行委員会副委 員長は松尾稔総長	10.13(月)	日刊工業
37	眼の病気についての市民公開講座 本学医学部眼科学教室・愛知県眼 科医学会主催	10.14(火)	日経(夕刊)
38	痛み緩和のペインクリニック 脊 髄電気刺激療法 本学医学部附属 病院でも受けられる	10.14(火)	日経(夕刊)
39	公的研究機関の独立行政法人化 特任教授・野依良治・理化学研究 所初代理事長が理研改革に決意を 述べる	10.15(水)	日刊工業
40	企業、大学関係者らが集まり NPO法人「バイオものづくり中 部」を11月に発足 理事には本学 など地元大学の教授や、約40社の 企業が参加	10.16(木)	日刊工業

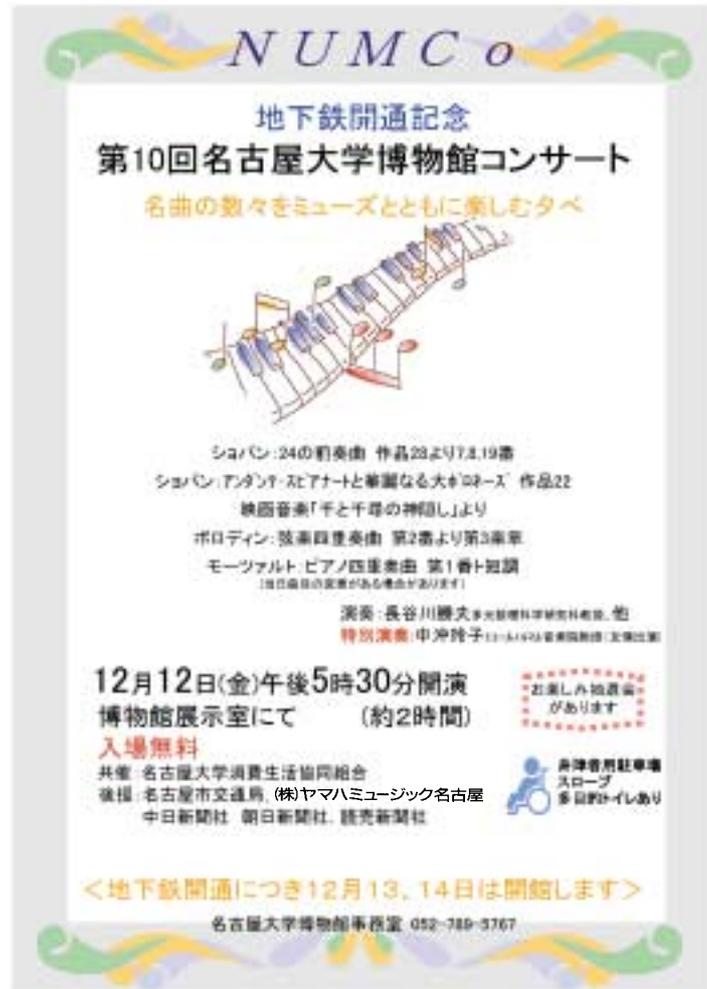
	記 事	月 日	新聞等名
41	JFE21世紀財団は技術研究助成の 対象25件を決定 鉄鋼技術の研究 は岩井一彦・工学研究科助教授な ど17件、環境関連は8件	10.16(木)	日刊工業
42	中部が拓く日本の未来：愛知県と 名古屋市は本学や名工大などと組 み「自律型ナノ製造装置」を共同 開発する	10.16(木)	日経(朝刊)
43	「メカトロテック・ジャパン2003」 本学と名工大の教授らによる「技 術シーズ講演会」などを開催	10.16(木)	中日(朝刊)
44	「学生ITベンチャーアイデアグラ ンプリ大学院・大学の部」1次審 査結果発表 入部百合絵・人間情 報学研究科のグループなど6組が 入賞	10.16(木)	中日(朝刊)
45	「ITS世界会議 愛知・名古屋 2004」まで1年 元本学工学部 教授・月尾嘉男・東大名誉教授 「交通と通信を一体化」	10.16(木)	中日(朝刊)
46	富士通は最大級スカラー型スパコ ンを京大から受注 本学と九州大 も現在のベクトル型からスカラー 型へ移行するか注目される	10.16(木)	日刊工業
47	訃報：八木國夫名誉教授 16日肺 炎のため死去 蔵書の医学書を名 古屋市立中川図書館へ寄贈	10.16(木)	中日(夕刊) 他3社
48	国立大の中期目標・計画素案 本 学は「世界屈指の知的効果を産み 出すミッションとビジョン」を20 年の目標に設定、中期目標・計画 はその最初の6年と位置づけた	10.17(金) 10.18(土)	中日(朝刊) 他6社
49	芽はぐくむ研究室：松田仁樹・難 処理人工物研究センター教授 難 処理廃棄物はリサイクル基本に処 理し、汚染から地球環境を守る	10.17(金)	日刊工業
50	秋の園遊会招待者 安彦忠彦・中 央教育審議会総則等作業部会主査	10.17(金)	毎日(朝刊)
51	名古屋出身・近代植物学の父、伊 藤圭介の世界広がる 附属図書館 で自筆の図説などを展示	10.18(土)	中日(朝刊)
52	「第57回日本臨床眼科学会」開催 を前に三宅養三・医学系研究科教 授(大会会長)に聞く 充実した 人生は目の健康を保つことから	10.19(日)	中日(朝刊)
53	撮影1回で臓器を総点検できる画 像診断支援システムを本学など8 大学が中心になって開発する	10.19(日)	朝日(朝刊)
54	オープンカレッジ「自由奔放！サイ エンス」初日は竹内常善・経 済学研究科教授が講義	10.20(月)	中日(朝刊)
55	名大サロンの主役：一宮彰彦・工学 研究科教授 「原子の砂遊び」と題 して講演 原子の世界は美しい	10.21(火)	中日(朝刊)
56	研究室発：水谷栄彦・医学系研究 科教授 産婦人科学 芽生えた命 無事に誕生を	10.21(火)	中日(朝刊)

	記事	月日	新聞等名
57	数理ウェブ：数学コンクールのフォローアップ企画 大和一夫・多元数理科学研究科助教授が講演	10 21(火)	中日(朝刊)
58	連続公開セミナー「紛争地もしくは紛争後地域における人道支援」 山本芳幸・法学研究科助教授が話す	10 21(火)	中日(朝刊)
59	科学技術予算概算要求に関する「格付け」 研究者・省庁に不満 特任教授・野依良治・理化学研究所理事長「学術研究の評価はすべて主観」	10 21(火)	中日(朝刊)
60	本学など世界の24大学が連携する「国際学術コンソーシアム(AC21)」の運営委員会 本学の提案による留学生のインターンシップや、国際学生会議のことなどを決めた	10 22(水)	中日(朝刊)
61	インタビュー：吉田保・長浜バイオ大学理事長 時代の要請に応え人材育成 産学官連携は郷通子・名大名誉教授に学部長を引き受けてもらったが、先生たちを中心に活動を進めている	10 22(水)	日刊工業
62	博物館の野外実習「ドングリを知ろう」 博物館・野外観察園で	10 22(水)	読売
63	子宮体がんの関連酵素突き止め再発防止に光 柴田清住・医学系研究科助手が学会発表	10 22(水)	中日(夕刊)
64	歴史書「宋史」で最古の超新星爆発を福井康雄・理学研究科教授らが確認	10 23(木) 10 24(金)	中日(朝刊) 日刊工業
65	第10回産学交歓セミナー 大学と企業の就職担当者が参加 奥野信宏副総長の基調講演などが行われた	10 23(木) 10 30(木)	毎日(朝刊)
66	第55回県表彰 42人・4団体が受賞 公共安全功労者には勝又義直・医学系研究科教授など	10 23(木)	毎日(朝刊)
67	医学部附属病院は患者本位の病院を目指して、組織改革や情報開示など様々な改革を打ち出している	10 24(金)	朝日(朝刊)
68	工学部建築学科創設40周年記念講演会	10 24(金)	中日(朝刊)
69	総長選 2次投票、平野真一・工学研究科長がトップ 11月25日の評議会で次期総長が決まる	10 25(土)	中日(朝刊)
70	第33回日本腎臓学会西部学術大会 市民公開講座「腎臓病とともに生きる」 前田憲志名誉教授は腎臓を長持ちさせる方法を強調した	10 25(土)	中日(朝刊)
71	「日本数学コンクール」 「日本ジュニア数学コンクール」の受賞者発表 東海高校の早川卓志君が大賞に選ばれた	10 25(土)	中日(朝刊)

	記事	月日	新聞等名
72	産業に役立つ大学研究グループ6段階で評価、河合塾など分析 本学は「生物有機」で理学部化学科などや、農学部応用生物科学科などが上位に入った	10 25(土)	日経(朝刊)
73	第2回名大脳外科セミナー 吉田純・医学系研究科教授による特別講演などが行われる	10 26(日)	中日(朝刊)
74	Weekly教育：大学祭 地域と交流 今回の本学「秋革祭」では学外を中心に約40団体が参加する	10 26(日)	朝日(朝刊)
75	明日の人に：平井勝利・教養教育院長 基礎セミナー 276テーマから所属に関係なく自由に選択させる	10 27(月)	読売
76	時のおもり：池内了・理学研究科教授 周囲の人が電磁波被曝 新幹線に携帯専用車を	10 27(月)	中日(朝刊)
77	協和発酵は本学と共同で脂肪細胞から骨を再生する研究を始めた 2年以内に臨床応用を目指す	10 27(月)	日経(朝刊)
78	浪川幸彦・多元数理科学研究科長の数楽、数が苦：確率0と可能性0 「無限小」と「ない」の違い	10 27(月)	中日(朝刊)
79	「テクノ・フェア名大2003」研究者ら成果披露 森健策・情報科学研究科助教授は医療のCT画像を立体画像に仕立てる方法を研究	10 28(火)	中日(朝刊)
80	後房雄・法学研究科教授に聞く 政権選択選挙の性格ははっきりと	10 28(火)	日経(朝刊)
81	市民セミナー「コビキタス、そして電子ペーパー」 山里敬也・情報メディア教育センター助教授、服部励治・九州大助教授が講演	10 28(火)	中日(朝刊)
82	学生之新聞：イラク支援、総選挙考えよう 留学生と日本の若者座談会 ジェフリー・ニコライセン・本学研究生らが参加	10 28(火)	中日(朝刊)
83	選ぶ！ 2003総選挙 教育基本法 論議どこに 榊達雄名誉教授「有権者に選択肢を示してほしい」	10 29(水)	朝日(朝刊)
84	エバディ氏のノーベル平和賞が語ること 中西久枝・国際開発研究科教授	10 29(水)	朝日(朝刊)
85	北海道陸別町でオーロラ観測 太陽地球環境研究所によると日本では肉眼で見えるようなオーロラは10年に1度	10 30(木)	毎日(朝刊)
86	医学系大学で女性教官の登用が進んでいないことが日本女医会の調べで分かった 特に国公立で少なくとも本学附属病院は5%	10 31(金)	毎日(朝刊)
87	米国機械学会シーゲート情報賞 三矢保永・工学研究科教授、東京工業大教授の両氏が日本人初の受賞	10 31(金)	日刊工業

INFORMATION

地下鉄開通記念 第10回名古屋大学博物館コンサート



INFORMATION に、新たに「イベント等の開催予定一覧」コーナーを設けることになりましたので、開催するイベント等がありましたら企画広報室にご連絡ください。

本誌に関するご意見・ご要望・記事の掲載などは企画広報室にお寄せください。

総務部 企画広報室 企画広報掛

電話：052（789）2016

FAX：052（789）2019

E-mail：kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

其湛(きたん)塔と創統(そうとう)の鐘

本連載第2回で取り上げたように、1920(大正9)年に創立された名古屋高等商業学校(名高商)は、本学経済学部の前身校にあたります。名高商が第1回入学生を迎えたのは翌1921年のことでした。写真の時鐘は、その第1回卒業生が卒業記念として母校に寄贈した其湛塔の塔頂に掛けられたもので、その銘文から「創統の鐘」と呼ばれています。「其湛」および「創統」の意味については、『其湛』の二字は校長渡辺龍聖閣下の撰ばれし所にして無辺際(むへんがい)の進展を意味し、・・・『創統』の二字は我等が撰びて以つて我等が把持せる創造的精神の具象たらしめしものとされています。

創統の鐘を頂く其湛塔は、高さ約18メートルの鉄骨製の塔で、1924年6月に竣工しました。其湛塔は戦時中の鉄材供出のために取り壊されて現存しませんが、創統の鐘は幸いにもその難を免れました。創統の鐘は、其湛精神の象徴としての音色が重視され鋳物作りの本場である小田原で作成されたもので、全砲金の鋳物で西洋風の瀟洒な形をしています。現在、創統の鐘は本学経済学研究科で保管されています。

なお、其湛塔と創統の鐘が竣工する1ヶ月前の1924年5月には、母校と卒業生とを結ぶ同窓組織としての旧「其湛会」発会式が行われています。同会は、現在の経済学部同窓会である社団法人キタン会の前身組織の一つとなっています。



「創統」の鐘



其湛塔(名高商1927年アルバムより)



名高商校舎外観(名高商1926年アルバムより)

名古屋大学の歴史に関する記念碑・記念物等に関する情報をお持ちでしたら、
大学史資料室(052-789-2046、nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp)へご連絡下さい。